

文教常任委員会

平成23年度合志市一般会計補正予算について

〔子育て支援課〕
一人親家庭の児童扶養手当の現状は。

〔答〕 4月から7月で新規で46人増え、転出や結婚などで8人が喪失し伸び率が6%で足りない分を計上しました。

〔高齢者支援課〕
老人クラブの数と会員数などの推移は。

〔答〕 現在42クラブ、2864人で、年々減少傾向（18年度53クラブ、19年度52クラブ、20年度48クラブ、21年度45クラブ）にあります。

平成23年度合志市国民健康保険特別会計補正予算について

〔問〕 一般被保険者療養給付金6000万円を計上している要因は。

〔答〕 入院費が3月から5月までの診療分において高額な治療を要する人が増えているのが要因です。

平成23年度合志市介護保険特別会計補正予算について

〔問〕 介護給付費基金積立金4000万円の目的と総額は。

〔答〕 介護給付積立金は介護給付費の不足を補うのが目的で、22年度末の基金残高が6640万8772円です。

平成22年度合志市一般会計歳入歳出決算について

〔福祉課〕
〔問〕 社会福祉課の生活保護担当の時間外は一人当たり月約20時間にもなるが人員配置は適正か。また、問題点は。

〔答〕 今年の4月にスーパーバイザーとケースワーカー3人体制になりましたが、途中からケースワーカーが一人具合が悪くなり休んでいます。ケースワーカーの育成が急務で非常に困った状況にあり、人事と相談して、定期的な異動を繰り返しながらケースワーカーを養成して、本来ならば5年くらいはケースワークを経験したケースワーカーが今後は他の社会福祉分野や健康福祉分野を勉強してスーパーバイザーとして帰ってくる流れを作らないといけないが育っていないので、まだまだケースワーカーが脆弱で難しい状況にあります。

〔子育て支援課〕
〔問〕 保育料の滞納状況と、これに対する認識は。

〔答〕 23年7月末の現年度の滞納額は149万5000円、92件。過年度分は13年度から22年度までの滞納額が9月6日現在で583万1560円、312件です。13年度からの滞納分については、地方自治法に準じて調査をしたうえで、執行停止、不能欠損に持つていくべきと考えます。

平成22年度合志市国民健康保険特別会計歳入歳出決算について

〔問〕 24年度中には国保会計は赤字が予測され、保険料改定を含む財源確保の議論もスタートしているが、どのように考えているのか。
〔答〕 特定健診は65%というハード



くすの木クラブ（学童保育）



家族介護教室（車椅子実技）

ルがあり、一生懸命取り組んでいます。かかる分は必ず請求が来るので、足りない分については税負担にお願するの、一般会計から繰り入れるのか、あるいは累積赤字という形で借り入れて運営していくのか出てくると思います。現在の受診率を8割に抑えるならば、今の財政でもやっていけることをまず市民にも説明したいということでも地区説明会を行います。国保協議会を2回開き、資料等を見せて協議していますがまだ結論は早いということで、3回目あたりで意見を伺いたいと考えています。簡単に上がるとは思っておりませんが、最大の努力をします。

合志市人権ふれあいセンター及び、合生文化会館条例の一部を改正する条例

〔問〕 両館の管理運営について。
〔答〕 人権啓発教育課の所管となつたためである。

合志市人権同和教育集会所条例の一部を改正する条例

〔問〕 二子上集会所の経緯について。
〔答〕 人権同和教育の拠点として活動してきたが、地元の管理も学習会もできない状況等から解体と判断した。

平成23年度合志市一般会計補正予算について

〔学校教育課〕
〔問〕 特別支援教育推進事業について。
〔答〕 西合志東小、西合志南中への特別支援についての県の委託事業であり、経費45万円は全額委託金である。

〔生涯学習課〕
〔問〕 ふれあい緑地北側駐車場のり面復旧工事について。
〔答〕 転落防止については、堅穴住居の解体で不要となったフェンスを再利用して設置する。



ふれあい緑地北側駐車場のり面復旧工事予定地

平成22年度合志市一般会計歳入歳出決算について

〔学校教育課〕
〔問〕 奨学金貸付事業について。
〔答〕 平成22年度申請件数は、34名で滞納者数は17名でした。滞納理由としては、経済的理由によるものである。

〔問〕 適応指導教室について。
〔答〕 三つの木の家、野々島教室、みずき台教室の3教室があり、14名が通学している。子どもたちの心の問題もあるので、福祉課や心理士等と連携して対応している。

（人権教育啓発課）

〔問〕 解放子ども会学習会開催事業について。
〔答〕 差別に負けない子どもをつくるのが目的で、差別を固定化するためではなく解放するために学習している。

〔生涯学習課〕
〔問〕 コミュニティ運営助成金について。
〔答〕 須屋コミュニティについては、23年度はコミュニティ運営委員会の意見を聞いて対応する。

〔問〕 生涯学習のまち（都市）宣言の未執行について。
〔答〕 生涯学習に対する市民の意識、機運の盛り上がりについて検証すべきであり、まだ宣言する時期ではないと判断した。

〔反対討論〕
部落解放同盟、及び全日本同和会の補助金支出、そして解放子ども会の学習会事業については一部の地域でしか開催されていないの

で他の子どもとの不公平感がある。学習費用の支出を他の学校教育を充実させるために使うべきである。同和施策を続けることが問題の解決を遅らせる。
〔賛成討論〕
同和問題、あらゆる人権問題についての啓発費用が必要な予算執行である。解放子ども会学習事業についても、子どもたちが置かれている状況を含めて市として最大限の努力をすべきである。



泉ヶ丘体育館調査